

那覇防衛施設局長 佐藤 勉 殿

要 請 書

先月、貴局は、名護市キャンプ・シュワブ沿岸部への巨大な米軍基地建設を前提とした周辺海域の、環境アセスメント法に基づかない現況調査（事前調査）を、多くの地元住民の反対を押し切って強行しました。

辺野古・大浦湾の沿岸には、絶滅危惧種であり国の特別天然記念物であるジュゴンが棲む貴重な自然環境が広がっています。ここに米軍基地が建設されれば、この貴重な自然が失われてしまうことは必至です。

このような自然破壊は、私たちにとっても黙って見過ごすことはできません。

基地のない平和で豊かな沖縄を願う圧倒的多数の県民の反対を押し切って強行される、米軍の新基地建設計画は許されません。

今回の調査をテコとして、米軍の新基地建設が既成事実化されることを強く憂慮するものです。

今回の調査で、調査機器設置の際、同海域のサンゴを傷つけたことが判明しています。この事実は、基地建設を目的とした調査そのものが自然保護とは両立しないことを如実に物語っています。

直ちに調査機器を撤去し、サンゴの保全を行うべきです。

また、今回の調査では、海上自衛隊の掃海母艦「ぶんご」が現地に派遣され、調査を支援しました。国民を守るべき自衛隊が、こともあろうに自然保護・基地建設反対の非暴力抵抗運動をしている住民を軍艦で威嚇したことは、戦後かつてなかった憲法違反の暴挙といわざるを得ません。強い憤りを覚えます。

貴局は、直ちに米軍基地建設を前提とした環境アセスメント法に基づかない現況調査（事前調査）を中止されるよう、強く要請します。

2007年6月10日

第35期 日本科学者会議埼玉支部幹事会